

には、リンクがあります。 は、WAMNETの事業者情報にリンクします。

事業所名 グループホーム あうん

日付 平成19年1月22日
特定非営利活動法人

評価機関名 ライフサポート

評価調査員 在宅介護経験9年
評価調査員 在宅介護経験12年

自主評価結果を見る

評価項目の内容を見る

事業者のコメントを見る(改善状況のコメントがあります！)

外部評価の結果

講評

全体を通して(特に良いと思われる点など)

「とりたてて何と言う事も無い、ごく普通のグループホームです」「このホームの特徴は？」に対する管理者の答がこうだったが、次に続く「ただ、思い切り、一人ひとりを特別扱いしようと思っています」の言葉に、私の胸は高鳴った。

ある一人の利用者が何かしたい、どこかへ行きたいと言うのを職員が小耳に挟んだ。「さあ、やろう！」「さあ、行こう！」という事になる。突然、弁当を作ってお出掛け、という事もよくある。やりたい事を口で訴えられない人の気持も、なんとかして探り出し、実現したい。こんな管理者、職員の思いや姿勢を利用者は十分察知していて、私が今までに訪問したどのホームより自由奔放な感じがする。よく喋り、よく笑い、よく職員をからかい、よく動く。ひよいひよいといった風に出かける。かなり離れた所にある芥子山に、日に2回登る健脚の人も居る。付き添う職員の運動不足は、お陰で解消される。「付きまとわれたくない」と言う人には、スカーターとなる。近所の方が「小さいおばあちゃんか…」と知らせてくれて、慌てた事もある。日頃からの近隣の人達とのお付合いの深さが分かる。「今の、その人の思いを一番大切にすると、言う事が、どれ程大切な事か、今日改めて実感した。

このホームでは、職員、利用者の関係性があまり感じられない。入り交じって一緒に暮らしていると言った様子だ。興に乗ると歌ったり踊ったり、おどけて見せたり、うまい冗談を飛ばし合ったりと、実に楽しい。利用者同士も話し合ったり、助け合ったりの様子も伺えた。このホーム内の空気は、澁む所、澁む間無く、いつも朗らかに流れている。どんな人も、どんな行為も、そのまま受け入れようとする包容力のあるホームと思った。ボランティア、園児達、地域の人々との交流もあり、良い関係作りが出来ているのも素晴らしい。

特に改善の余地があると思われる点 次のような提案をした

家族会や毎月の“たより”等を利用して、このホームの方針や問題点等を知らせ、ホームのあり方を共に考えていく姿勢を示して頂きたい。

感動的なシーンや言葉、自分の判断では迷うような状況等のトピックスを、例えば連絡ノート等に記し、他の職員も意見を追記しながらノート上のミーティングをしたり、思いを共有する等してケアプランにつなげて欲しい。

I 運営理念

番号	項目	できている	要改善
1	理念の具体化、実現及び共有		
記述項目	グループホームとしてめざしているものは何か		
	「独りになりたいとおもっている時は、そっとして独りにしてあげよう」「自分はこの暮らしの中で特別扱いされている。とても大切にされていると感じて頂けるように」こういった見極めが出来た人、表面的ニーズに応えるだけでなく、深層的ニーズに応えられる感性の持ち主の職員が集まるまでには、相当の苦労や困難があったと思う。しかし、開設して3年余りとなる今、代表者や管理者が目指すグループホームの姿の基盤が出来つつあるようだ。		
	計画されている毎月の行事の他に、利用者の一寸した吐きが大声になつての小旅行やドライブ、園児や児童・ボランティアの人達、そして近隣の住人との交流等、他のホームと比較して活動的な日常が多く見受けられる。職員に、「忙しくて大変でしょう」と言う「利用者さんの笑顔が嬉しくて」と答える。答える職員は、心底嬉しそうだ。リビングルームでの何と言う事もない日常の中に、心と心、体と体の触れ合いが一杯ある。「じゃんけんばい」がお得意の男性は、ある職員の仕草を感じただけで、「じゃんけん」の体制に入っている。これが「あうんの呼吸」だろう。		

生活空間づくり

番号	項目	できている	要改善
2	家庭的な共用空間作り		
3	入居者一人ひとりに合わせた居室の空間づくり		
4	建物の外回りや空間の活用		
5	場所間違い等の防止策		
記述項目	入居者が落ち着いて生活できるような場づくりとして取り組んでいるものは何か		
	拾ってきた石や落ち葉、草で部屋いっぱい飾っている人が居る。散歩する度に増えるが、職員はその思いを応援している。利用者はしっかりと自己主張が出来、自分らしく、のびのび自由に暮らせる空間となっているが、とても嬉しい。イベントの時も十分活用出来る広い敷地や、安心な散歩コース等もよく活用されていて良い。		

ケアサービス

番号	項目	できている	要改善
6	介護計画への入居者・家族の意見の反映		
7	個別の記録		
8	確実な申し送り・情報伝達		
9	チームケアのための会議		
10	入居者一人ひとりの尊重		
11	職員の穏やかな態度と入居者が感情表現できる働きかけ		
12	入居者のベースの尊重		
13	入居者の自己決定や希望の表出への支援		
14	一人で行えることへの配慮		
15	入居者一人ひとりに合わせた調理方法・盛り付けの工夫		
16	食事を楽しむことのできる支援		

III ケアサービス(つづき)

番号	項目	できている	要改善
17	排泄パターンに応じた個別の排泄支援		
18	排泄時の不安や羞恥心等への配慮		
19	入居者一人ひとりの入浴可否の見極めと希望にあわせた入浴支援		
20	プライドを大切にされた整容の支援		
21	安眠の支援		
22	金銭管理と買い物の支援		
23	痴呆の人の受診に理解と配慮のある医療機関、入院受け入れ医療機関の確保		
24	身体機能の維持		
25	トラブルへの対応		
26	口腔内の清潔保持		
27	身体状態の変化や異常の早期発見・対応		
28	服薬の支援		
29	ホームに閉じこもらない生活の支援		
30	家族の訪問支援		
記述項目	一人ひとりの力と経験の尊重やプライバシー保護のため取り組んでいるものは何か		
	利用者に対して担当者を決めて、アセスメントからケアマネジメント、モニタリングまで担当者がじっくり観察をして記録している。「一人ひとりを特別扱いしよう」と言う職員の意気込みが、ここでも感じられる。利用者同士も仲良くなって「お風呂入る？」「じゃあ、入るうか」と相談して一緒に入る人もある。職員と一緒に入って、裸の付き合いとなる人もあるようだ。		
	踊りの好きな利用者が居て、町内の盆踊りの輪の中に入って踊っている。このホームでは、出来る限り本人が持っている力や経験を活かそうとしている。だからこそ「病院よりもここがいい」と利用者が話すほど、家族も見違えるように穏やかで明るく、ここに馴染んだ暮らしが出来ているのだろう。		

IV 運営体制

番号	項目	できている	要改善
31	責任者の協働と職員の意見の反映		
32	家族の意見や要望を引き出す働きかけ		
33	家族への日常の様子に関する情報提供		
34	地域との連携と交流促進		
35	ホーム機能の地域への還元		
記述項目	サービスの質の向上に向け、日頃から、また、問題発生を契機として、努力しているものは何か		
	「玄関の鍵を始めとして、利用者に対する制約や束縛を可能な限り取り外した暮らし」を目指すには、相応の覚悟と準備が必要だ。ホーム側にしっかりと信念と、職員同士の連帯感があるからこそ、少々な事で揺らぐ事のない日々となっているのだろう。さらに、これに加えて、家族と地域社会の理解、協力の輪を強めていくな、より協力なものになるに違いない。家庭で年若い親と暮らしていても、色々な事が起きる。第二の家のグループホームでも、当然事はあるだろう。「その時に、どのような対応をしたか」「問題発生を、より良いケアへとつなげたか」きっちりと検証しようとする姿勢が記録の中から伺われた。全体のカンファレンスの他に、毎朝のミニカンファレンス、リビングルームの片隅に置かれた「思いつき提案」の入ったカンファレンス、あるテーマ毎にレポートを書く等の学習意欲等が総合的に作用してサービスの質の向上に結びついているのだろう。		